

9月『新世代のための月間』に寄せて

新世代が真に求める支援を

新世代部門担当諮問委員

パストガバナー 寺山栄一（深谷東RC）



ロータリー活動に焦点を当てるために、RIでは、特に9月を新世代のための月間に指定しています。そして、その指針は

- ①青少年向け職業相談の開催
- ②青少年交換計画の公表
- ③会員の事業所の見学に青少年を招待
- ④例会プログラムに青少年を参加させる
- ⑤学生への経済的援助
- ⑥レクリエーション・プログラム、IAC、RACとの協同奉仕活動

など、極めて広範囲にわたるものとなっています。

しかし、新世代（30歳未満）の若人の基本的ニーズは、私たちの考えていること（共育＝一緒に学ぶ）と遊離していると思います。例えば、情報源一つを見ても、私たちは活字を信頼し、活字を求めて行動してきましたが、彼らは情報洪水の下で、過保護に育てられ、活字のみならず、映像、音、メール等多種多様の伝達手段を駆使し、ネット社会で自我を構築しています。

こうした時代に、私たち日本のロータリアンが過去を追うプログラムを「金科玉条」とするのではなく、新世代が真に求める新しい支援を勇氣をもって各クラブは行うべきだと思います。

若者たちとの交流を深めていきたい

新世代部門委員長

郷家正和（坂戸RC）



新世代月間に当たり、ご挨拶申し上げます。次代を担う若者たちへの教育問題は多分、有史以来大人たちを悩ませてきた問題ではないでしょうか。答えは出ているでしょうか、いや私たち人類が存在する限り、これといった答えは出ないかもしれません。

ロータリーも創立以来、積極的にこの問題に取り組んでまいりましたが、先の規定審議会で「新世代部門」として独立した部門を設け、その姿勢をさらに明確化致しました。

ますます多様化する社会のニーズ、混沌とする社会情勢、将来展望への不安、いつの時代にも

あったことかもしれませんが、近年その傾向は一層深まっているように思えます。

このような時代だからこそ、我々ロータリアンは、各自の職業を通じて、またその存在を通して彼らの先達にならなければなりません。

新世代部門は、ローターアクト、インターアクト、青少年交換、ライラの4委員会構成される最大の部門です。従来より諸先輩の築かれてきた各事業を継承しつつ、さらに研究を重ね、若者たちとの交流を深めていきたいと思えます。地区内会員も皆様方の積極的な事業への参加、また各種のご提言等をお待ちしております。

時代にマッチした柔軟な対応

ローターアクト委員長
滝澤常昭 (深谷 R C)



最近、頻繁に青少年犯罪のニュースがマスコミに登場します。しかも小学生にまで問題が及んできており、私たちロータリアンには想像もつかないスピードで犯罪の低年齢化が進んでいるように思われます。

これは家庭や学校の教育問題、さらには複雑化した社会環境とも相まって非常に根の深い厄介なテーマとなりつつあります。

この青少年育成問題に関しては、様々な社会的奉仕団体が存在し活躍されているのも事実です。我がロータリークラブも「新世代部門」を通じて、この分野では以前から積極的に活動して

おります。

しかし残念ながら現在「ローターアクトクラブ」は前号にも掲載して頂いた内容のとおり、様々な事情から、その活動は低調を極めております。

ローターアクトクラブの衰退が新世代の犯罪の増加に直結しているとは申しませんが、青少年の奉仕活動に対する意識の低下は、他の組織でも同様で大変気になるところです。

「新世代」に対してのロータリーの取り組み方は年々変化しておりますが、今後も時代にマッチした柔軟な対応が肝要かと思えます。

人類が永遠に繁栄するために

インターアクト委員長
田中博兼 (熊谷 R C)



1962年国際ロータリー、ラハリ会長の指導のもとに日本で最初にインターアクトクラブができたのは、仙台の仙台育英高校であり、その2年後の1964年に第2570地区の東松山ロータリークラブ提唱の県立松山高校にインターアクトクラブが誕生致しました。

インターアクトクラブはロータリー活動の一環として R I から提唱され、世界一の団体だと私は思います。

人類が永遠に繁栄するためには、第1に住みよい社会、第2に平和な社会、第3に奉仕の社会、第4に国境を越えての国際社会、これらの奉

仕活動を青少年らしく活動していくクラブが必要だと思えます。

インターアクトクラブは「地域社会に奉仕し、国際理解に貢献する青少年のため」に国際ロータリーが提唱し、年齢14～18歳までの青少年が入会できるのです。

本年度もいろいろなプログラムがありますが、その都度参加して頂き、新世代月間に寄せる言葉と致します。

9月『新世代のための月間』に寄せて

さらなるご理解とご協力を

青少年交換委員長

山崎 嘉正 (川越RC)



青少年交換委員会は去る7月26日に開催された第34期派遣候補生選考試験において、5名(すべて女子)の高校生を選考しました。その後派遣候補生は1年後の派遣に向けて約10ヵ月、計12回の研修(オリエンテーション)を受け、ロータリーの青少年交換学生としてふさわしく、さらに民間親善大使の役割を果たせるよう目的や意義、心構えを習得致します。

また来日学生については2003-04年の来日が6名(1月来日2名、8月来日4名)です。国別は、アメリカ3名、ブラジル2名、オーストラリア1名で、ホストクラブの皆さんのご協力によ

り、毎日楽しく生活しております。国や地区が違えば、来日学生のこのプログラムに対する意識はまちまちで、対応に苦勞をされることもしばしばあります。しかしロータリアンをはじめ来日学生を取り巻く人々が互いに協力し、日本での良い経験や思い出をお土産として自国に持っていけるよう、誠心誠意努力されておられる姿に、委員会としても心から感謝致しております。

いよいよ8月23日の開講式に始まり、委員会活動は本格化してまいります。どうぞロータリアンのさらなるご理解とご協力をお願い致します。

青少年の指導者を育成

ライラ委員長

山田 晃 (行田RC)



ロータリー青少年指導者育成プログラムは14歳から30歳までの指導者および将来指導者となる青少年のための養成プログラムです。

青少年が人生の重大な決断を下す際に援助の手を差し伸べ、若い指導者たちを有望な方向に導き、指導者としての可能性を活かす最良の方法を見分けるビジョンを提供しようと思います。

ライラの目標は：

- 1) ロータリーが青少年を尊重し、青少年に関心を抱いていることを一層明らかにすること
- 2) 選考した青少年指導者及びその素質のある人に実施訓練を体験させ、責任ある有能なボラン

ティア青少年指導者となる方法を身につけるよう激励、援助すること

- 3) 青少年による青少年への絶えざる、力強い指導を奨励すること
- 4) 青少年指導者として地域社会に尽くしている多数の青少年の優れた資質を公に表彰すること

ライラは主要なロータリー青少年活動であるとともにローターアクトクラブとインターアクトクラブの結成や強化にもつながり、ロータリアンはライラを通じて手を貸すことができます。